



郷土史

# ていね

第 92\*号  
平成 27 年 8 月 12 日  
手稲郷土史研究会会報

## 3第 111 回(平成 27 年 7 月 8 日)定例会の研究発表要旨

### 残 響 (文芸サークル)

富丘 井塚 重男会員

作者 田中和夫 紹介

昭和 8 年 北海道 江別市生まれ

昭和 27 年 国鉄就職

昭和 62 年札幌車掌区車掌長で退職

高校時代から明治・大正期の北海道群像を中心にした小説や戯曲、放送脚本を執筆

昭和 46 年 小説「トンネルの中」で第 23 回国鉄文芸年度賞第 1 位

昭和 57 年 小説「残響」で第 16 回北海道新聞文学賞

昭和 58 年 国鉄加賀山賞

昭和 63 年 北海道文化奨励賞

現在札幌市手稲区に在住



本年度「NHK」の大河ドラマで「残響」を取り上げて放送して貰うべくサッポロビール等関係者が期成会を立ち上げた。当会にも支援要請があった。

「残響」の内容については紙数の都合で、項目のみを記します。

- 1 章 函館戦争
- 2 章 開拓使東京出張所
- 3 章 七重開墾場
- 4 章 札幌麦酒醸造所
- 5 章 札幌雁来通り
- 6 章 東京農業試験場
- 7 章 終焉

## ご当地検定と観光ボランティア

富丘 梶本 孝会員

私が初めてご当地検定が実施されているのを知ったのは、新聞を見ていた家内から「退職後の“ボケ”防止に挑戦してはどうか!」という問いかけからでした。新聞を見て初めてご当地検定なるものがあることを知ったのです。早速、翌日書店に行ってみると「北海道観光マスター検定」が沢山並んでいました。見ると横には「小樽案内人検定」と「札幌シティガイド検定」の公式テキストも一緒に並んでいるのです。ここで始めて道内各地の当地検定があることを知ったのです。

早速「北海道観光マスター検定」のテキストブックを買い求め自宅に戻りページをペラペラと開いてみると、

- 一、北海道の基礎情報。
- 二、北海道の観光地
- 三、北海道の歴史
- 四、北海道の祭り

## 五、北海道の自然

## 六、北海道の交通網と交通機関

## 七、国際観光基礎

など8章に分かれており、内容は一般的な基礎知識レベルのもので、ページ数も124ページで暗記をする量も余り多くなく、この内容であれば私でも合格しそうと感じました。ここまできると、後はイケイケドンドンで1週間で読破し内容を確認した後、暗記に入りました。さて暗記と言っても高校時代にテストの前の勉強で暗記はしたことはあっても、50年以上も経っていますから、この固い頭の中に果たして詰め込むことが出来るのか多少の不安はありましたが、決断してテキストを購入してきているので、いまさら辞めるわけにはいきません。

10月3日に購入して7日には通読1回目、10月10日で2回目、10月18日で3回目、前半は順調です。これから11月23日試験日までの1カ月はひたすら暗記です。高校時代を思い出しながら、声に出す、目で字を追う、書きながら頭のなかに詰め込んでいきます。暗記は自宅から会社までの55分が勝負です。歩きながらお経を読むように声に出して何回も繰り返し繰り返しして頭のなかに覚え込ませます。

10月3日にテキストを購入して試験日までの1カ月と20日間勉強することのなんと新鮮なことか！何にも苦にならない。それどころか楽しい！一日平均2~3時間の勉強。56歳になって机に向かうことの幸福感は、自分を満足させるのに十分でした。試験の発表は合格です。

次は何処の試験を受けるか？書店に行って考える。札幌検定のテキストが書店にあったので購入して2回目の挑戦です。しかしこれもなんとなくパス。すると欲が出てきて次は何処を受けようか？という試験を受けているうちに、全道のご当地検定の試験を全部取ってしまいました。初めて試験を受けて6年目でご当地検定全てに合格してしまいました。北海道・札幌・小樽・函館・江別・清田区・千歳・帯広・釧路・網走・きたみ・旭川・稚内・厚岸・後志の14市町村と世界遺産検定・北海道学検定の試験をすべて落ちずに一発で合格です。

検定予定日は各市町毎にバラバラですが全体的には、春と秋に集中しています。ですから私は、年に2~3回のペースで受験してきました。検定料金は、無料の清田区から五千円くらいまでいろいろです。資格内容は、上級・初級が一般的ですが一部の地域では上級のワン・ランク上のマスターなどの資格を設定しているところもあります。試験の内容は、合格させる試験（北見・網走・厚岸）と落とす試験（函館・札幌）がありますが、試験に合格することによる特典は合格地域でのボランティアへの参加や小樽のように市内各地にある公共施設（水族館・手宮鉄道博物館など）が無料になるところもあります。毎日が充実した6年間でした。

札幌商工会議所の観光ボランティアは札幌検定が合格した後、商工会議所からボランティアのお誘いの文書がきました。定年後のことを考えて、観光ボランティアに参加させていただいています。参加回数は1カ月に2~3回の割合です。ボランティアのメンバーは、総勢130~140名位で運営しています。毎年新人さんが入ってきますが、辞めていく人と、入ってくる人が同数くらいですので全体の人数は変わりません。

活動箇所は、赤レンガ庁舎内（午前・午後各2名）時計台（午後1名）狸小路（午前・午後各1名）で年間を通して活動しています。尚、雪祭り・夏期期間等は特別に人員を増やして活動しています。案内の内容は、観光場所のご案内や同行案内（観光客と一緒に行動して案内する）・写真撮影などです。同行案内は札幌の気候・地形・人口・歴史など様々ですが、観光客に合わせて内容はさまざまです。同行案内は観光客の要望に合わせて大通り・テレビ塔・時計台・創成川・赤レンガ・北大構内など要望があればどこへでも一緒します。しかし午前も午後も3時間以内なので案内できる地域は限られてきます。交通機関等を使用する場合はボランティアの分はお客さまの負担となります。その他に商工会議所に直接電話で申込みがあつた同行案内もあります。それは家族やグループ、修学旅行などで、修学旅行の場合は、案内人が20名位（北大構内）に達することもあります。この場合の案内人は直接本人に商工会議所から電話が入り同行の依頼があります。

現在は、本を読む習慣が身につきましたので、道内の歴史に関わる雑誌を図書館から借りて読みふける毎日です。



以上

# 分科会報告

## ★ 文芸サークル・開拓史研究部

7月22日、有島武郎の『「リビングストーン伝」の序』について、有島の本文と合せて、会長のスクラップ資料(北海タイムスの記事)について話し合いました。この論評の執筆者須藤隆仙氏は、茂内会長と共に活動された方だそうで、その逸話話もしていただきました。

梶本孝会員が飛び入りで参加していただきましたが、十分なお話を伺うことが出来なかったことを申し訳なく思っております。(小田記)

## ★ 資料部

7月23日に資料部員が集まり、パネル展について打ち合わせをしました。手稲区の9校の小学校から各校6資料ずつ紹介することにして、選定担当を分担しました。8月12日に内容を確定し、それに基づいて8月末までには展示資料を作成する予定です。展示は、10月7・8日、予約できました。

## 8月の分科会カレンダー

分科会名	日 程	予 定
文芸サークル・開拓史研究部	8月26日	北海道庁と文書館見学研修
手稲石の会	8月	未定
資料部	8月27日	史跡案内板巡り



## 会員の広場

### 随 想

星置 松永 恭一

私が初めて北海道に来たのが昭和32年4月頃、北海道はまだ開発途上国の印象だった。

初めて札幌に降り立ったとき、眼前に藻岩山や手稲連峰が望め、おしめをした馬車が行き交い、角巻を纏った女性が行く姿は、強烈な印象だった。都会と田舎が渾然一体となった一見ミスマッチなバランスが北海道と云う大自然に見事に溶け込んでいる様に見えた。(当時札幌の人口は45万位だった)その頃、電車は市電と定山溪鉄道しか走っていなかった。

暖房に達磨ストーブを使っている客車があった。特急列車はまだなかった。十月頃には初雪が降った。当時、中の島で下宿していたが、布団の掛け衿に霜が降りた。春になると梅より桜が先に咲き、五月には一斉に草木花が咲き揃う。山に入れば細い筍が沢山採れた。(当時は孟宗竹しか知らなかった)

東京に生まれ育ち、学童疎開を除いて、外に出た事のない私にとって、何もかもが新鮮に見えた。在札の3年間はア!!と云う間に過ぎた。その後転勤を繰り返し、再び札幌の地を踏んだのが昭和47年の夏、仕事も変えて永住する為に戻った。

札幌に降り立った時、浦島太郎の心境だった。地下鉄が走っている。ダイエーがある。高層ビルが建っている。平岸街道の川が消えて、きれいな四車線の道を車がせわしく走っている。人口は百万を超えて、神戸を抜いて5番目だと云う。思わず頬を抓(つね)った。

きみまるではないが、あれから四十年、仕事も卒業して、自由時間の中で、今住んでいる所がどんな歴史を辿って現在に至っているのか、と興味を持った所、紹介されたのが手稲郷土史研究会だった。

毎回発表される諸先輩方の講話を聞くのが楽しみだ。歴史に培われた故郷っていいなあ!

## 新参者から抜け出すために

金山 岡田 信一

この度、特別功労賞を受賞して、心からの感謝と共にちょっと呟いてみました。(編集者註：特別功労賞は当会から80歳以上の会員に授与されるものです)

どんな場合でも、受賞は嬉しいものですが、年齢によるものとなりますと、改めて現実の自分に気付かされます。“無我の人生路又は黄泉路を歩いているのだな！”と。

2年前、多くの負荷を背負った人生から解放されて、本会の仲間の一隅に入れて頂きました。楽しく、そして、脳の活性化を促進出来る期待を持って張切っております。

考えてみますと、平成11年度、稲穂金山活性化推進委員会の“地域のよもやま話集づくり(稲穂金山よもやま話：小冊子五集発行)”に参加し、小生は第二集より金山地区担当。早速、金山地区在住で昔の金山を知る人達(65歳~80歳位)10数人に集まって頂いて懇談会を開催。いろいろな逸話、伝説、トピック等についてお喋りをしました。皆さんから新参者と言われながらもしつこく聞き出し、楽しく作文したことを思い出しました。当時「新参者から抜け出すには、最低20年はかかるよ」と言われて、平成元年に居を構えた小生は“ムッ”と来ましたが、地域の歴史等を勉強して早く新参者から脱却することを考えました。

それから間もなく、本会の発足祝賀会に来賓の一人として招待を受け、チャンス到来と考えましたが、当時の自分の身を考えた時、入会しても出席不可能に近く、渋々断念したことも思い出しました。

この2年前に自由の身となり、やっと目的を果たした次第です。

未だ新参者ですが、これからも勉強させて頂きますので、よろしくお願い致します。



### 次回の予定

次回(9月9日)は相川重吉会員「ルーツを訪ねて」と川崎吉充会員「手稲周辺の余話(石狩尚古社・すすきの昔話)の研究発表予定です。

会場は、3階の視聴覚室です。

### 《お知らせ》

平成27年度北海道文化財保護協会通常総会(6月6日)に於いて手稲郷土史研究会、相談役の野村武雄氏が今回、北海道文化財保護協会の顧問に就任されました。今後もお元気で活躍されますようお願いしています。